

持続可能なめがねのまちさばえ～ジェンダー平等こそが輝く未来への鍵～

福井県鯖江市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

眼鏡、繊維、漆器を三大地場産業とするものづくりのまちで、家族経営が多いことから、女性が働きやすく社会参加しやすい風土が育まれ、特に20～40代前半の女性の就業率が高い。また、学生連携や市民協働によるまちづくりも活発。2018ニューヨーク国連本部でのSDGs推進会議では、「鯖江市役所JK課」の取組など本市の女性活躍をテーマに演説し、高い評価を受けた。課題として、意思決定の場や町内会組織での役員等に女性が少ないほか、地場産業の縮小、担い手不足などの懸念がある。将来にわたり成長力を確保し、性別、年代に関係なく、全分野で能力を生かす環境のもと、持続可能な地域社会の構築を図る。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

市固有の資源を最大限に活用することで、地域のブランド力を高め、魅力ある雇用が生まれ、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりを実現。経済界、市民、大学等が「well-Being」という考えのもと、協働で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組み、誰もが「育てやすい、暮らしやすいまち」「みんな輝く、市民活躍のまち」として持続可能な地域社会づくりに貢献する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

SDGs普及啓発とパートナーシップの確立
一人ひとりがSDGsを自分ごととして行動する機運を高め、またステークホルダーとの連携協力を強化し、推進活動を促進する。
・「さばえSDGs推進センター」（SDGs推進のハブ的拠点施設）運営
・さばえSDGsフェス
誰もが輝くまち鯖江の推進
・さばえ38組（女性活躍を推進する経営者の会）
・「夢みらい館・さばえ」（男女共同参画・女性活躍推進拠点）運営
・女性起業家支援「鯖江メリコア」実施
健康福祉のまちづくり
・高年大学（高齢者の生涯学習施設）
鯖江モデル教育の推進
・行政出前講座（歴史・文化）

6. 取組成果

「さばえSDGs推進センター」の運営状況（2023）
来館者3615人／開館日数256日／企画展・催し物19回
出前講座・団体見学56回2652人
さばえグローバルクラブ（SDGs推進に賛同する企業、学校、団体）登録 161社・団体
さばえSDGs部38人（SDGsに取り組む学生のプラットフォーム。センター中心に活動）
地域おこし協力隊（カナダ人）による海外の視点からのジェンダー平等研修会 6回95人
さばえSDGsフェス開催 来場者 20,000人（2日間）

さばえ38組 38人
夢みらい館・さばえ 男女共同参画推進事業など 1,664人参加
女性起業家支援「鯖江メリコア」により 50人起業
高年大学 11,424人参加
行政出前講座（歴史・文化） 2,241人参加

5. 取組推進の工夫

さばえSDGs推進センターを拠点に、夢みらい館・さばえ、環境教育支援センター、グローバルクラブ会員、学校などのほか、連携協定締結した企業、団体など、様々なステークホルダーと連携して取組を行うことで、相乗効果や、事業効果の拡大を図った。また、国連とのつながりを活かした情報収集や、国連への取組レポート、英訳付でSNSを発信するなど国内外へ情報発信した。

7. 今後の展開策

引き続き、女性の居場所や出番を作り、また、性別に関係なく意思決定の場に参画しやすい環境を整えていく。さらに、女性だけでなく、若い世代からSDGsの理解を深める。2022からはSDGsフェスを開催し、市民のSDGsの「見える化」や「自分ごと」とする意識付け、行動にうつすきっかけを作るとともに、SDGs部や地元学生などの若者、企業、学校などのSDGsの取組の発表の場としたり、市内外からの来場者に本市の魅力を知っていただくことで、地域ブランド力を高め、住みたくなる・住み続けたくなる持続可能な鯖江を目指す。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

第2期SDGs部活動／「ふくいSDGsアワード」（仁愛大学主催・鯖江市後援）にオブザーバーとして参加
県外視察・研修会 4回／海外視察・研修会 2回／立教大ゼミ15名／明治大学留学生45名フィールドワーク
韓国嶺南大学20名視察／IGF京都（国連主催のインターネット・ガバナンス・フォーラム）参加